

平成 27 年度第 4 回鶴岡市地域コミュニティ活性化推進委員会 会議録

- 日 時 平成 28 年 2 月 25 日（木）午後 2 時～午後 4 時
- 会 場 鶴岡市第 3 学区コミュニティセンター大ホール
- 委員出席者 鶴岡市地域コミュニティ活性化推進委員会委員 13 名  
(名簿資料【0-0】のとおり)
- 市側出席者 市民部長ほか鶴岡市地域コミュニティ活性化推進委員会幹事、事務局 27 名  
(名簿資料【0-1】のとおり)
- 公開・非公開の別 公開
- 傍聴者の人数 0 人

(午後 2 時 開会)

1 開 会 (進行：コミュニティ推進課 渡邊課長)

2 挨 拶 (市民部長)

3 協 議

(委員長) 本日は、コミュニティ推進計画策定に向けた最後の委員会になるので、皆様からいろいろなご意見を伺いたいと同時に、この計画をどのように進めて行くかについても、積極的なご発言をいただきたいと思う。

では、協議(1)、(2)について、まとめて事務局からの説明を求める。

(事務局) 資料 1、資料 2、資料 3 により説明

(委員長) 協議事項の(1)と(2)をまとめて、説明がありましたが、計画について、足りない点とか、反映されていない点等のご指摘を含めて、ご意見をいただきたい。

それから、計画の推進についても、事務局から、地域ビジョンを中心にご説明があったが、地域ビジョン以外についても提案いただきたい。

(委員 K) 各地域の状況が計画に反映されていると思うし、活性化に向けて期待したい。

計画の推進にあたっては、鶴岡市として、インパクトある課題を打ち出し、現実的な数字を出すなどで刺激し、それによって、地域が活性化し、色々進むことを期待したいので、説明する際に吟味をして、この計画を広めていただきたい。

また昨今、高校生は卒業して、地域を離れると、戻ってこないということで、ニュースにもなっている。しかし、この地域にも色々な事業所があり、頑張っている方達がいる。そんなことを広めようとする動きがやっと出てきている。以前は、ここで育てて、どんどん日本の中核に行け、あちこちに行けと子供たちを外へ出していたのだが、やはり、郷里に戻るといような流れもあると思うので、こういったことも、ぜひお考えいただきたい。

最後に、ステップアップ事業の補助金については、色々活用されているということで、大変有効な事業だと思うし、その他にも県の補助金等があるが、どこに相談したら良いのか、窓口をわかるようにする等、あるいは、補助金のネーミングもわかりやすくする等、自治組織だけでなく、一般の住民の方も活用できる補助金等、やる気のある人、団体にうまく伝わるよう考慮していただきたい。

(委員D) 自分の住んでいる大鳥地区では、地区の方々が、市の地区担当職員も入って地域ビジョンをつくりあげ、そのビジョンに基づいた具体的な取組を実施するため、3年間の補助金が付く集落対策事業を実施した。そのねらいは、地域が自立して様々できるようということだと思うが、3年を経過して、その後継続している活動というものが殆ど無い。地区の現状が、高齢化率が70%程もあり、圧倒的に高齢者が多いため、マンパワー・馬力が足りないということも一因と思うが、この推進計画にどんな意図や経験が蓄積されてこの文章になったのかわからないが、そんなに簡単なものではないと思う。他の地区では、例えば三瀬地区や、山王商店街等、地域が主体となって取り組んでいることがあるようだが、その活動がどのようなものか、経過等も教えていただきたい。

(委員J) 住民主体で活動をしていると言われるが、まだまだ足りない部分が多いと感じている。三瀬地区で、地域ビジョンというのは、今は無いが、こんな地域にしていきたいということ、どのように住民に浸透させて推進していくかは重要だと思う。こういった推進計画を住民一人一人にわかってもらうのは難しいことなので、効果的なのは、マスコミに取り上げてもらい、わかりやすい言葉にして記事になると、地区外の人が三瀬地区を知ってもらえる、あるいは、地区の人が地区外の人に言われて、自分の地域の活動を知るといったことが非常に重要なのではないかと。周知という意味では、マスコミに取り上げてもらうということも考えていくべきではないか。

それを踏まえて残念なのは、パブリックコメントが1件も無かったこと。それは興味が無いという状況であり、先日、荘内日報の一面に、本件が載っていたが、パブリックコメント期間が終了した後に掲載されていたので、このあたりのタイミングが合うと、興味のある人も出てきたのかと感じられ、タイミングも大変重要かと思う。

(委員G) 若い人達がコミュニティに入ることができない状況にあるようで、推進計画が出来上がっても、多分若い人たちは「我々には関係無い」と思うのではないかと。また、自分達の地域のコミュニティの現状を、どこからどう変えて良いかもわからない、断絶されているとSNSへの書き込みがあった。確かに若い人が役員になるということは無く、まずなりたい人もいないのが現状なのかと思うが、コミュニティへの入り口がどこにあるかと聞かれても、確かにそれは難しいと思う。ある地区では持ち回りの役員ができないので、この集落から出て行く人もいるということを知ったこともあり、現状は厳しい状況にある。

武田先生が入って動いている南遊佐地区では、住民が危機感をもって、集落が動き出したという話を聞いたので、やはり、そういう危機感があるところから動くのかと感じている。

山王商店街では、売上げが下がり、いよいよダメになってきた時に、店を閉まって出

て行ってしまうというのが現状。「何とかしよう」では無く、出ていくという状況。残っている人は、出たくても出られないという人。その後、若い人達に任せて、ということになり世代交代したが、それから、成果が上がった、頑張ったことが感じられるには 20 年かかった。3 年や 5 年では成果が見えず、もっと長いスパンで見えていかなくてはならない。

(委員 P) 私が住んでいるまちは、昔からの住宅街で、高齢化が進んでいるが、官舎やアパートがあり、比較的若い人はいるが、町内会の運営には全く関わってもらえないのが現状。辛うじて、子どもがいる家庭は、子ども会を通じて関わっている。一方、私のまちには山形大学農学部があり、その中にボランティアサークルがあって、町内会での除雪等の手伝いをしたいという申し出があった。従来、町内会では除雪協力隊という組織はあったが、これを機会にもう一度、協力隊を少し動きやすいように変えてみることにした。市のステップアップ事業の助成を受けて、統一のユニフォームをつくり、協力する人をグループ分けし、山大農学部の学生には、そのグループが活動する時に、最低 2 名ぐらいずつの人員を派遣してほしいと依頼した。町内で募集した、除雪作業に協力する方と、山大生とで 26 名程を 3 つのグループに分け、除雪が必要な世帯について、希望を聞いたら、あわせて 4 世帯だけだった。今年度は 2 度しか活動していない。原則、木・日曜日 9 時～10 時半まで除雪をしてほしいという世帯と、それ以外に、消火栓前、ゴミステーション前、除雪車が通った後の雪の関係で道幅が狭いところの箇所があれば拡幅を、雪置場に運ぶことも含めて行うということで、昨年 11 月にスタートした。

もうひとつは、第 3 学区だが、町内会連合会・学区コミュニティ協議会・社会福祉協議会・民生児童委員連絡協議会の組織、それぞれ独自の活動をしていて、お互いの連絡機関がなかったが、平成 26 年 10 月に、はじめて 4 つの団体の連絡会議を設け、まず、この中で何が一番問題になっているかを各町内等にアンケートをとり、結局、高齢者の生活の支援が必要であるとなり、昨年 12 月に「おだがいさま支え合いネット」という有償ボランティアの仕組みを立ち上げた。それで、最初に各町内の戸別にチラシを配布し、サポーターを募集して、その結果を見て、サービスを必要とする人を募集することとした。サポーターは、学区内 21 町内会のうち、7 つの町内会から 11 人、それから学区の中にある障害者の通所施設が 3 団体あり、そこから 19 人、合わせて 30 人ぐらいのサポーターが集まったので、今度はサービスを必要としている方を募った。サービスを受けるには、10 枚つづりのクーポン券を 1,500 円で買い、除雪や草とり等、サービスに応じて、必要なクーポンの枚数を使っていく。サポーターは、利用者から受け取ったクーポンを社会福祉協議会へ持っていき、換金されることになっている。サービスを受けた人は、11 の町内会で 14 人、民生児童委員を通じて募集をしたこともあり、本当はもう少し広く募集してもいいかと思うが、とりあえず昨年からはスタートした。これから夏に向けて除雪とは違うサービスが必要となるか検討が必要になっている。

(委員 H) 計画 58 ページで、「学校と地域が連携し」、という文言が新たに入っていることで、私がやりたいと思っている活動が後押しされたと思っているところだが、計画の説明は、コミセン等の他に、学校でも、説明をしていただければどうか。私は小学校で地域ボランティアとして読み聞かせの活動等をしているが、子ども達に地域を知っても

らう、学校で説明して、子ども達にも、もっと、「地域に守られている」、そして、「鶴岡の子どもです」ということを子ども達に感じてもらうことが大事なのかなと思う。

市長との車座ミーティングをして、女子は高校卒業して鶴岡から出ていくと、帰ってこないという話があった。やはり、まずは、鶴岡の魅力、地域の魅力を伝えていかないといけないと思っているので、学校の方にも、推進計画の関連する部分を説明してもらいたい。

それから周知だけでなく、どこまで進んでいるのかという確認と、もうひとつは、評価ということが必要だろうと思う。評価されると、コミセンの方でもやりがいを感じると思うので、そういう事も必要なのではと思う。あと、市の広報はページが多くて難しいが、「コミセンだより」（地区広報紙）に掲載されると、皆読むと思う。

(委員長) ここまでで、整理すると、委員の方々から具体的に 4 つ位の提案があったと思います。1 つ目が一番多いのですけれども、やっぱり、住民に知られて理解されないことには何もならないのではないかと、ということで、住民への説明・周知について、皆様からは、インパクトあるものに、分かりやすく、そのためにはマスコミにも協力を得たほうがよいのではないかと。あるいは、コミセンや町内会等の広報誌に載せてもらう、そして学校にも、ということが 1 つ目。誰に向けて周知するのか、で方向が変わってくると思うが、さらに委員の皆様から、提案をいただきたい。

2 つ目は、住民自治組織ステップアップ事業補助金を活用して、さらに地域ビジョン策定後の取組を進めるという事務局からの説明について、一般住民にもわかりやすい、名称、周知の方法、と言う提案があった。

そして、3 つ目は、自治組織、それから NPO 法人等の多様な主体も含めて、補助金情報の集約ということ。

4 つ目は、確認と評価、評価は成績をつけるのではなく、頑張っている人がやりがいを感じられるよう、そのための評価が必要、というご指摘をいただいている。

皆様からのこれまでの具体的な推進についての提案はこの 4 点かと思う。これに関連して、それ以外でもいかがか。

(委員 L) 地域によって、全く様相が違うため、どれが一番よい推進方法か、市全体では難しいものになると思う。一つは、この計画自体が町内会活動、コミュニティの活動に対する一つの提言であったり、アイデア集であるので、そういったことを意識しながら、実際に取組むということが必要になると思う。事務局の説明では、周知して地域ビジョン策定に向かうことがメインになっているが、おそらく地域ビジョンは手が挙げたところからやっていくことになると思うが、それに留まらず、こうした具体的な事例、取組を町内会長等に説明し、できるところから取り組んでもらいたい、そういう働きかけをしていく必要があるのではないかと思う。例えば学区ごとに町内会長等を参集し、この計画を説明し、町内で取組んでいただきたいという。それで、これがひとつのアイデア集・提言集ですので、それに照らして自分の町内会はどうだろうと考えていけば、地域診断の一つの指標にもなるので、そのような周知をしていってはどうか。その上で、地域ビジョンの取組につながっていけばいいと思うし、地域ビジョン策定の際には、ぜひ、社会福祉協議会も一緒に、地域支え合いプランも進めていければと思う。

それから、市で地域福祉活動計画を策定しているが、そのプロセスの一つとして、町内会にアンケート調査をしており、各町内会長から、約 530 の自由記述があり、それを見ると町内会長さんが相当大変だということがわかる。新しいところでは、人口が増えている割には参加者が少ない、参加しているところは人口が減っている。住民のなかには、参加しないが、文句だけ言う。そのような状況で、町内会長への支援が必要だろうと思う。それは「町内会活動に参加しましょう」、「町内会はこんな役割を担っています」、というようなことを住民の方々からわかってもらえるような事をしていくべきではと思う。市から、そのような広報や市民への働きかけをするだけでも、町内会長さんの支援、援護射撃に繋がるのではないかと思う。

(委員O) 私の住んでいる所は、櫛引の宝谷で、冬には雪がたくさん降るし、人は少ない、そんなところですよ。うちの地域は、地区の自治会に、文化部、体育部があり、あとは、ふるさと村宝谷の三団体があり、それぞれ活動をしているが、役員はほぼ同じ人がやっている。それで、地区では組織を一まとめにして見直そうという動きが出てきている。

この委員会の委員となったこともあり、地域のコミュニティとは何かを考えると、一番は、自分の住んでいる地域を守っていこうという気持ちで、一番大切なのではないかと思う。それで、やりたくても、できないものはできないし、今やっているものに肉づけしながら、例えば農業ができなければ、別のことで地域活動をする、笑顔もあり、苦しいこともあり、皆でできることからやっていけたらと考えている。

やはり、人口減少の影響が大きいと、ひしひしと感じている。現状は、年齢構成をみても(集落を)出たほうが良いとも思うが、何とか自分が育った地域は、死ぬまで守っていききたい。欲をいえば、我々の後ろにつく人間を育てていきたいという気持ちであり、何でもいいから、できることから活動していこうと思っている。

(委員B) 地域では、農地を維持できなくなっていることを危惧している。伝統行事も、子どもが少なく、子どもの行事である踊りができないということが、再来年くらいに起きる状況であり、また、笛、太鼓等の楽器を演奏する人もいなくなり、大変困っている。以前は活気ある集落にしたいと理想を描いていたが、最近になって、維持するだけが精一杯と思っている。自分が若い時には、消防団で先輩達から、お酒を飲みながら、様々なことを教えてもらった中に、地域愛も教わったが、今となっては、そのように引っ張っていく人も無く、酒飲み等も無くなった。昔は農家が多かったが、今は、会社員で、夜勤がある等、皆が揃わないということも、原因でもあると思う。

計画の推進について、住民自治組織ステップアップ事業補助金とはどのような内容なのか、具体的に教えていただきたい。それから、補助金を使った中で、こういう事例があったというものを教えていただきたいし、61 ページからの取組み事例の中で、この補助金を使っているところもあつたりしたら教えていただきたい。

(事務局) ステップアップ事業補助金について、交付対象は、住民自治組織に限定されており、自らの地域づくりのための新たな取組について支援する事業で、修繕費等の工事費等を対象外とし、実施主体の組織が直接実施される取組への支援となります。

この度、この推進計画にあります地域ビジョンの策定の推進に向けて、ビジョンで定め

た取組を進めるための枠を平成 28 年度から設ける予定です。

単位自治組織は、1 回当たり 10 万円の上限とし、対象経費の 3 分の 2 補助、広域コミュニティ組織は、1 回当たり 20 万円としています。同一の事業で、3 回まで申請が可能であり、地域課題の解決に向けた取組を後押しする事業となっております。

ステップアップ事業補助金を活用した取組事例ですが、計画書の 61 ページ、新海町の組織改革の取組で、町内会に 43 ある隣組を 16 に再編し、元々あった 43 の隣組を班体制とするという組織改革、次の大塚町「ボラパーマン」の取組も支援しており、スーパーマンに例えて、「ボラパーマン」と名付け、地域の若い人達が除雪隊を組み、高齢者宅等の除雪を行う取り組みです。次の第一学区コミュニティ振興会の「誰も孤立させない絆づくりプロジェクト」も支援事業であり、学区の関係団体が一同に会して、高齢者等を孤立させない取組を行っています。64 ページの「じよなめるコン」婚活事業にも支援をしております。それから、70 ページの由良地区「ふるさとかるた」も支援しており、小学生をはじめ、地域の方々から由良地区の関する読み札となる標語を募集し、かるたを作成。あわせてかるた大会を開催し、地域の魅力の再認識と交流を図っていくという事例であります。

補助事業の採択件数は、制度が発足した平成 26 年度は 17 件、平成 27 年度は 21 件で、予算額は 200 万円のところで、補助申請総額は 190 万円ほどとなっております。

(委員長) ステップアップ事業は、私も審査員になっているが、応募が多く、厳正な選考のうえ、21 件の採択となっている。来年度、さらに応募があることを期待しているが、先ほどあったように、周知ももっと必要であり、採択事例を事例集として出していければよいのではないかと思う。

(委員 F) 朝日地域に限定して、私なりの推進策について考えを述べると、朝日地域にコミセンが設立され、1 年経ったが、地域の自治会等との一体感、一体性を持って、地域を動かしていくにはどうしたらいいかということを考えると、私は生涯学習推進員がキーパーソンだと思う。生涯学習推進員とは、イベント要員でもなければ、作業要員でもないと思う。市から地区担当職員が入って自治会と一緒にビジョンをつくる時に、生涯学習推進員も一体になって、ビジョンをいかに展開していくか考える。また、コミセンから地域を活性化する為にどうすればいいのかを発信していく、そういうトータルプランナーのような役目を果たしたらよいと思う。そのような位置付けが、私は、生涯学習推進員の本来の姿かと思う。それにこの地域がかかっていると思っている。安心・安全の地域づくりもいいが、安心・安全だけでは人は生きられない。夢や希望が無いと生きていけない。そのためにも、生涯学習推進員の質の向上が大切だと思う。

(委員 H) 私が、生涯学習推進員を引き受けた時は、今の推進計画に基づいているわけでもなく、ある意味、あて職だったと思う。しかし、そのような質を求めるならば、生涯学習推進員を選任するにあたっては、そこまで踏まえた人選を、今後するべきではないか。今までと同じようなやり方では難しいのではないか。今後、推進員に、一度、推進計画を説明して、生涯学習推進員の役割について、説明する必要があると思う。そうすると、今後、辞退する人が出ると思うが、それでも、やはり重要だと思う。私もまだ子育て中で、今はどちらかという、子ども達の活動に関わることをしているが、そういう役割を求め

るのであれば、スキルの向上のための研修とか、今までの研修とは違う研修のあり方も、もっと必要になるのかなと感じている。

(委員M)私の地区では、食文化やスポーツを通じて多世代交流事業、特に四世代、学社連携事業といった学校教育と社会教育との中間にあるものを、一生懸命やりながら若い人を育てていこう、そんな考え方で強力に進めていこうとしている。それで、現在、平成28年度の事業計画も策定中で、そのような事業に取り組む予定です。

この推進計画の素案が出た8月、9月に計画の藤島地域の部分を学社連携事業等の際に話しをしてきた。地域の方々は、人口減少、若者の流出はわかっているが、帰属意識の低下、コミュニティが弱体化していることはあまり感じていない。5年後にこういう状況で、今からすべきことと話しても、なかなか難しい。そのため、この計画を進めるには、こちらから問題提起するのではなくて、住民の方々、皆で、5年後に、こんな事態になるので、何が困るか、何をしなければならないかを考えてはどうかと思う。おそらく結果は、推進計画とほぼ一致すると思う。こちらから、大上段にこの計画を住民に説明しても、抵抗があって、農村地域の30世帯程の町内会では、若妻会や、婦人会があり、老人クラブもいきいき活動し、寺社の集まりもあり、コミュニティを維持する組織がある。さらに新たな取組みを進めるとするのは難しい。逆に向こう（住民）から主導権を握って、住民が主体で進められるようにしては良いのではと思う。

ビジョンの策定に向けて、若い人や子ども達の、元気な声が聞こえるまちにしたい、恋の花咲く町にしたいと、そういう夢みたいな話をしながら、それが具体化されるかはわからないが、さらに、5年後のビジョンとなると、具体的な取組になるので、その辺は住民の皆さんからゆっくり聞いて決めて行こうと。ほぼ、固まっているが、まだコンセンサスを取っていないので、そのように進めようと思っている。

(委員C)5年程前の鶴岡市地域コミュニティ基本方針の策定から関わっているが、今回推進計画ができてずいぶん前進したと思う。これだけ時間がかかったということは、それくらい大変だったということであり、これからの5年は計画をつくることに時間を割くのではなく、基本方針により導入した総合交付金制度や地区担当職員制度といった施策をいかに充実させていくかということに、力を注いでいただきたい。5年ごとに見直すとなっているが、この計画はよくできていると思うので、改訂するくらいの気持ちでいかがか。

理想は、取組が進み、各地区で課題が少なくなっていくこと。そして参考となる取組事例が多くなることを期待している。ぜひ、地区担当職員制度がどうなっていくか、私はこれがコミュニティ基本方針の肝だと思っているので、ぜひ、この制度を充実し、それが取組事例に載るようになって欲しいと思う。周知徹底ということで、いろんな人にこの計画が知れ渡ることは大事だと思う。そして、今度は住民の方々から市に対し「こう書いてあるから、こうしましょう」という声が上がってくるといいと思います。是非、粘り強く続けてください。

(委員長)ひと通り、皆さんの意見をいただいたところで、先ほど委員Gが触れていた酒田市の南遊佐での活動について紹介すると、住民のワークショップを4回実施し、課題を抽出しつつ、地区の良いことも共有して、最後に資源として確認したものを活用しながら

課題解決をどうしたらよいかと、話し合いを続けているもの。地区の人口が千人余りのところ、毎回 100 人程住民が集まり、続けていると、次も参加しよう、または自分の代わりに家族から誰かが出席するなど、女性も含め、幅広い年代から積極的に参画するようになっている。先ほど委員Lからあったとおり、町内会長さんだけに負担をかけないように、人口も減り、住民のお互いの顔もわかる地区で、住民の話し合いの場をつくって、意見を引き出すことによって、一人一人の住民の主体性を育てる、引き出しいくというプロセス無しには、計画の推進はないだろうと思う。そのためワークショップみたいなものが必要で、広く住民の意見、子どもも含めて意見を出しあう機会。その際に、やはりキーパーソンが必要で、先ほどの意見からは、生涯学習推進員や、地区担当職員、または、NPOの場合もあるかもしれないし、いろいろと考えられる。それで、本日配付したチラシは、私の職場でやっている事業で、鶴岡市や委員Gからもご協力をいただき、来年度から、地域全体を見渡しつつも、まずは住民の意見を引き出すこと、ファシリテーションというような、対話の場をつくる、そして色々な意見を引き出す。そしてそれを実行に移すことを、継続的に、委員Bのように、持続的な地域づくりに関わり続けるようなスタンスで、関わっていけるような人材養成プログラムをはじめたいと思って、地域の皆様のご協力を得て、一緒に進めている。全市的に、あるいは、もっと広い地域で協働して、キーパーソンづくりに取り組めたら、というのが、私の意見です。

ビジョンは、計画をつくることを目的にするのではなく、未来について考えられる、色々な人と話し合える、課題を抽出し、その中から優先順位がつけることができる、人づくりのきっかけになる、ということを目的として、地域ビジョンの策定を進められればよいと思っている。

(事務局) 計画の最終的な策定は年度末を予定しており、来年度、配布、説明していくことになるが、なるべく細かく地域に入って、説明していくことが必要かと思っている。

また、ビジョンに限らず、地域が取り組めることから取り組んでいく、その実践事例を紹介していくことが、一番効果的な方法かと思うので、事例集にまとめるとか、事例発表会を実施していくといったことを充実させていきたいと考えております。

また、ビジョンに向かって進む際に、地区担当職員がやはりキーパーソンになると思いますが、地域の方々とともに、まずは地域の実態を把握しながら、進めていく必要があるのかと考えております。

(委員G) 評価について、NPOでも評価が問われる。ただ「頑張りました」だけでなく、補助事業などでは、数値目標を出すようとなる。で、数値とは何か、見えない数値等もあるので、見えるところだけやったらそれで評価になるのか。何か指標がないと評価できない。どういう指標を出すかということ。

(委員F) 私は、評価は人が評価するのではなくて、それを実施した本人達が満足したかどうか、それが全てだと思う。周囲が評価しても関係無いので、本人達の満足度を調べたほうがいいと思う。

(委員長) 推進計画を、これから住民へ周知していくときに、地域ごとでも、目指すところ



るを示すことができれば、よいのかと思う。そのことについて、皆で話し合ったり、あるいは、取組に満足しているか、十分連携できたか等を話し合っていければよいのではないか。つまり、推進計画の中にあるものを、どう示すかということになる。

計画の推進にあたって、住民の方々に、分かりやすく説明してほしい等ということもあるが、我々もここまで関わってきた以上、我々にもその責務もあるのかと感じている。本日の会議が大きな一区切りとなることから、最後にご意見を伺う。

(委員D) 49 ページの上から 4 行目、「若い世代を巻き込んだ事業の仕組みづくり」という表現だが、「巻き込む」という表現が、上から下に対しての言葉に感じられ、私はこのような言葉は使わないので、「一緒にやる」というような表現、言葉のほうが良いのではないかと思う。

(委員長) 他にもご意見がある場合は、事務局へお願いします。私もこれからは、まず人材育成が自分の役目だと思っており、来年度の事業で、皆様に受講生の推薦等のお願いも含め、楽しく学び合える場を創っていきたい。それでは、事務局にお返りする。

(事務局) 委員長、どうもありがとうございました。それから、委員の皆様も大変参考となるご意見を頂戴しまして誠にありがとうございました。

次第の「4 その他」、今後のスケジュールのお話ですが、今後、計画は最終調整をして、年度内の策定を考えております。皆様方には、完成しましたらお送りさせていただきます。

それから、早尻先生が、勤務のご都合で、本日の委員会が最後となります。長い間ご指導をいただきまして、ありがとうございました。

今年度は、これで委員会は終了となりますが、委員の皆様には、27 年度より 2 年間の任期でお願いしておりますので、来年度も、引き続きよろしく願いいたします。

以上をもちまして、平成 27 年度第 4 回地域コミュニティ活性化推進委員会を閉会いたします。本日は誠にありがとうございました。